

坂の上の雲を目指して、明治・大正・昭和と私たち日本人は何度も大きな窮地に立ち、また大きな挫折を味わいながらも、ただひたすらに坂を駆け上がり、経済は世界の頂点まで上り詰めようとしていた。しかし、山の頂にかかる雲に突入したとたん何も見えなくなり、もう何年も五里霧中の中でもがき苦しんでいる。

しかし幸いなことに、臨床検査技師教育の分野では、まだ坂の途上にあり、私たちが成し遂げなければならない目標は明確に見えている。

最も重要なことは、「臨床検査技師教育をすべて大学教育にすること」である。世界の主要国の臨床検査技師教育は当初から大学教育になっている。しかし日本の臨床検査技師教育は政府・技師会が大学化への方向性を打ち出しているにもかかわらず、私立の一部の教育施設の動きが極めて鈍い。大学教育化は、単に臨床検査技師の地位向上のためだけではなく、医療の高度化・複雑化に対応して専門性の向上を図り、チーム医療を実践するための基盤となるものである。日本臨床検査学教育協議会はこの問題を最重要課題として取り上げ、全ての教育施設の大学化を実現させるために必要なことを一つ一つ洗い出し解決して行く必要があるだろう。

「チーム医療教育の推進」も重要である。本号でも取り上げた「IPW 教育」を含むチーム医療教育が今後の医療において重要であることは世界中で認識

されている。ますます高度化・複雑化してきている医療を限られた医療資源(人・物・金)で効率よく安全安心に行うためには、医療を担う全ての医療人が互いに信頼し対等の関係で自由に議論し連携・協働していく「チーム医療」が必要不可欠である。そのためにも個々の医療職の力量の向上と全医療職間のコミュニケーションを可能にするために必要な共通の医学知識(すなわち患者さんの病態把握に必要な医学知識)の習得を可能にするための教育改革が必要になる。

さらに幸いなことに、世界経済が低迷する中で、医療を含むヘルスケア産業はその成長が約束されている。健康でありたいという願いが人々にあるかぎり、この市場は大きく膨張していだろう。そして、健康であるためには、疾病の発症・増悪を予知して予防するための「予防医療」が大切であるが、疾病の発症・増悪の予知には臨床検査が不可欠であり、その検査技術や予防のための医療技術の研究開発も臨床検査技師が取り組むべき重要な研究課題になっている。従って、臨床検査技師教育の大学・大学院教育は今後の医療にとっても極めて重要な課題であることを私たち教育者は認識する必要があるだろう。

次号からは北海道大学の森山隆則教授に編集をバトンタッチする予定である。

(平成 22 年 7 月 29 日 編集委員長 岩谷良則)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部
編集委員会(平成 20・21 年度)

委員長：岩谷良則(大阪大学)、副委員長：戸塚 実(東京医科歯科大学)、委員：市原清志(山口大学)、江本正志(群馬大学)、奥村伸生(信州大学)、河原 栄(金沢大学)、北里英郎(北里大学)、熊取厚志(千葉科学大学)、森山隆則(北海道大学)、横井 昭(藤田保健衛生大学)

臨床検査学教育 第 2 巻 2 号

平成 22 年 9 月 1 日 発行

発行人：一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
理事長 三村邦裕
〒143-0024 東京都大田区中央 3-22-14
(昭和医療技術専門学校内)
Tel. 03-3775-1611 FAX 03-3775-4304
<http://www.nitirinkyo.jp>

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
E mail : edit@jamte.org
制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船 3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770
広告取扱社：(株)東広社
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-3-8
Tel. 03-3409-8803